

とらしいの山甲から

たいぶさみさき

大房岬自然公園ニュースレター No.94

2014年
12月

朝晩冷えますが、お日様がぽかぽか暖かい日中の芝生の上はとても気持ちが良いですよ。
南房総では菜の花が咲く冬。スイセンも咲き始めました。今年も残すところあとわずかです。

たいぶささんぽ

自然の様子や最近の出来事など、旬の公園情報をご紹介します。

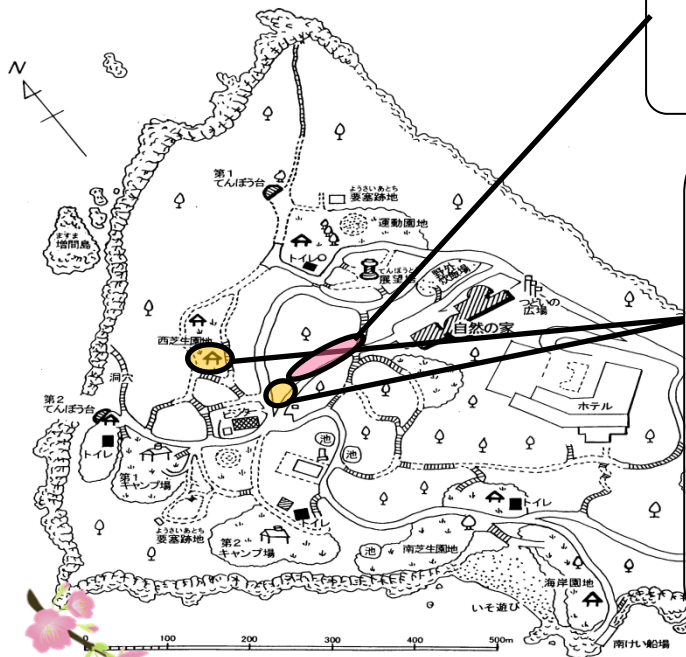
こんなところにニコちゃんマーク😊

「カラスザンショウ」

枝にある葉痕(*)を探してみてください。

水を吸う管が笑った顔に見えますよ😊

(*)葉痕…落葉樹は寒い冬の間、呼吸のエネルギーをセーブするために葉っぱを落とします。そうして枝に残った、葉っぱの痕のこと。



黄色い目立つ実にご注意「センダン」

ビジターセンターの横や西芝生園地に大きな「センダン」の木があります。よく街路樹にもつかわれる木で、春先には紫色の花が芳香を放っていましたが、この時期は黄色の実がついているのが目立ちます。

乾燥すると実の核の部分が6室に分かれている様子が見え、白っぽい形をしています。じつはセンダンは毒性が強い実。犬が食べると5,6粒で死に至ると言われています。幼い子どもなども要注意ですね!



さくらもり 大房の「桜守」になる!

ボランティア活動、始動!!

「大房岬を城山公園(館山市)と佐久間ダム湖(鋸南町)と並ぶ桜の名所に!」

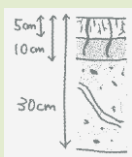
そんなスローガンで11月から大房岬の桜を保全するボランティア活動がスタートしました(全4回)。講師に樹木医の齊藤陽子先生(館山市在住)をお呼びして、主に運動園地の桜を元気にするための講座と実践を行っていきます。11/18(火)の講座の内容を少しご紹介します!

❖ 桜の特徴

- *日照を好むので、日陰になると花つきや枝葉の生育が悪くなる。
- *腐植土に富んだ適温な土壌を好むが、肥料の入れすぎはNG。
- *地表面から30cmの深さに呼吸・水分を吸収する根が集中しており、外部からの踏圧害を受けやすい。

❖ 運動園地の土壌、健康状態は?

桜の樹冠の真下を掘ってみると…



作土層(*)はここまで。
*根が伸びやすく、根の生育に適した土の層のこと。

作土層が浅く、それ以下はとても固くなっていることが分りました。

❖ 「桜切る馬鹿」と言うが…?

桜は大気汚染に弱く、都市などで容易に感染しやすいこと、剪定後に傷口から水分が染み出して乾燥せず切り口が塞がりにくいことなどから、古来「桜切る馬鹿」と戒めてきました。しかし、近年では適切な剪定を剪定時期に行えば、むしろ桜を美しく元気に保てるとして、剪定の意義が認められています。

その細かな術を全4回かけて学べる「桜守」講座、皆さまのご参加お待ちしております!

次回
12/10(水)
1/28(木)
2/12(木)



→人間の踏圧などが原因! 樹冠の下に入らない工夫が重要。